

し得べく、而して于闐使人の安寧を希請せる所以も、亦兩者のかかる密接の關係に基づくものなるを斷じ得べし。

(長興五年五月十四日の疏中「」を劃せる數行は余の寫眞に缺けたる所なり。他日原本に據りて補ふべし)

四、曹元深疏 後晉天福七年 (No. 4046)

後晉天福五年曹議金死して其の子元德嗣げり(舊五代史晉紀)。元德に嗣げるものを元深と爲す。羅振玉氏は瓜沙曹氏年表

に於て、新五代史晉高祖紀に、天福七年十二月「丙子于闐使都督劉再昇來、沙州曹元深・瓜州曹元忠皆遣使者、附再昇以來」と記せるに據り、「元德之卒史所不載、此已稱沙州曹元深、意是年元德已卒、元深時爲留後、故以元深之名遣使與、著之俟考」とせり。元德の死時は此の疏に就きて知る可らざるも、然も此の使が當時既に節度使たりし元深の派遣したるものなりしことは此の疏の末に記せる所に依りて明らかなりとす。

疏中述ぶる所は前出曹議金の疏に見ゆる所と殆んど其の規を一にし、只だ天公主及び于闐に關する文字の一も存する無きを以て著しく相異なる點なりとす。此の年は議金の死を距る僅に二年に過ぎざれば、かかる相違は只だ行文の上に於る偶然の事と認むべきか、抑も亦此の間に於ける兩者の關係の粗密に歸すべきか、攷究に値する所なるべし。

五、陰善雄・羅盈達・閻海員・張懷慶銘讚 (No. 2482)

卷末に於て更に汜府君圖眞讚并序の題記あれども本文を缺けり。此等四人の名は史書に傳へらるる所無きが如く